1 平成25年3月10日に開催された防災避難訓練「まなぼうさい」。校区人口の約3割となる1000人以上が参加し、災害に備えた訓練行動を体験した

2 3 高齢者と本荘小児童が交流しながら作成していく「校区カルタ」。子どもたちが探した「地域の宝」を元に読み札案を作った

一枚の写真が人と人をつなぐ

この企画が最初に提示されたときは「大変だろう」と心配された人が多くいたといいます。しかし、せっかくの機会だから、高齢者に触れる機会が多い民生委員でがんばろう、と竹田津さんたちが立ち上がりました。校区の行事の度に呼びかけたり、広報紙で募集をかけたりして、写真は少しずつ集まりました。写真が集まるにつれ、協力者も少しずつ増え、写真を提供してくれることも多くなったといいます。「『あの人が、こんな写真を持っていたよ』とか『この人なら、昔のことを話してくれるんじゃないか』などの話が集まってくるようになりました。なかなかお会いできない人にも会うことができ、そのこともよかったのです

が、それ以上に、昔のことを話しているうちに、高齢者の方が元気になっていくのが感じられたり、話すことを楽しみにしてくれたりすることが嬉しかったですね」。そんなつながりづくりは、発行後の現在も続いています。「表紙に、本荘小学校100周年のとき、児童で人文字を作った写真を載せたんですが『ここに、自分が写ってます!』と声をかけてくれる人がいたり、『これが亡くなったおばあちゃんだよ』なんていう会話があったり、まさに、いろいろな人のつながりを作るきっかけになったと感じています。がんばって本当によかった」。

新たな絆づくりは女性と子どもたちから

実は、本荘校区は、青少年健全育成協議会や民生委員児童委員協議会などでも役員として多くの女性が活躍している校区。校区自治協議会の会長も、中央区ではただ一人の女性会長です。「本荘校区今昔記念誌」の企画にも協力し、竹田津さんともよく地域のことを話し合うという校区自治協議会の榮そのみ会長は、人と人、地域と学校、地域と企業などさまざまなつながりの橋渡し役を目指している、といいます。

学校行事も校区全体で、というのが本荘校区自治協議会のモットー。ラジオ体操や学校清掃など、学校に呼びかけて子どもたちと一緒に行っている

「新しい方たちを巻き込むためには、子どもたちを巻き込むのがポイントだと思っています。子どもたちとつながりをつくることで、地域の活動に保護者を巻き込み、協力者を募っていくことで、新しい地域の元気が生まれるのではないかと。だから、小学校に積極的に呼びかけて、お泊りキャンプに防災の視点を入れ、アルファ米を提供して災害体験をしてもらうなど、学校の行事を一緒になってやっていくことも、とても重要だと思うんです。いろんな場所に出ていって、『一緒にやりましょう!』と呼びかけ、きめ細かな協力体制を築けるのは、女性ならではかもしれないな、とも思います」。

地域活動のためには、自分も協力してくれる人も、元気であることが一番、という、榮さんと竹田津さん。本荘校区を元気にしていくために、一歩ずつ進んでいこうと、女性の視点を活かした活動を進めています。

本荘校区自治協議会の榮そのみ会長(右)と民生委員児童委員協議会の竹田津キクエ会長（左）

本荘校区（平成25年4月現在）
人口計:3,361人
世帯数:2,240世帯
町内自治会数:11